

早稲田大学山岳部

アコンカグア登山隊2012

登山計画書

早稲田大学山岳部

1. 海外合宿について

2011年11月
山岳部長 千野拓政

現在、山岳部では、2012年2月～3月に南米アコンカグアにおける合宿を計画しています。学生の海外合宿は2005年のヨーロッパアルプス以来です。前回の合宿が計画段階からOB・OG諸兄の強力なサポートを仰いでいたことを考えれば、学生が主体となって一から取り組む合宿としては、1984年のアンデス合宿以来ということになります。

今年は、3月の東日本大震災で多くの方が被災され、今なお厳しい状況におられる方が多数おいでになります。大学も震災の影響で、一ヶ月遅れの開講となりました。しかし、厳しい環境の中、山岳部は幸いにも部員全員が被災を免れ、順調に合宿を遂行して参りました。そして、このたび、部員が主体となって海外合宿を実施することになりました。

ご存知のように、海外合宿は、当初、中国雲南省白芒雪山で行う予定でした。しかし、現地の事情で、出発直前に計画を断念せざるを得ませんでした。計画を練り直し、再度挑戦を決めたのが、このアコンカグア合宿です。学生が、度重なる困難にもかかわらず、意欲を捨てず、海外合宿を推し進めたことを、わたしはすなおに喜びたいと考えています。

登山が他のスポーツと異なる特性は、総合力が問われることにあります。体力や技術が重要なこととは言うまでもありません。ただ、山の中で生活をしなければならない山登りは、それだけでなく、食糧、装備、医療、気象などいろいろな方面に習熟することが求められます。まして、外国との交渉や、現地での物資の調達、異国での医療、輸送、通信など、より広範に困難な対応を強いられる海外合宿では、いっそう高い総合力が必要とされます。学生たちが、そうした難度の高い計画にチャレンジするまでに力をつけてきたことを、みなさまにも評価していただければ、これに勝る喜びはありません。

数年来、山岳部は必ずしも順調に活動してきた訳ではありません。部員どうしのコミュニケーションがうまく行かず、部の存続が危ぶまれた時期もありました。しかし、監督、コーチ、OB・OGのみなさまのご支援と、学生たちの努力によって、ようやくここまで来ることができました。山の難度や登山の規模をみれば、今回の合宿はまだ小さな一歩かもしれません。しかし、学生たちは合宿を自分たちの手で作り上げようとしています。そうした精進の積み重ねが、山岳部の活動をレベルアップしていくことに繋がると、信じてやみません。

また、今回の合宿は、登山後の現地における各種活動を含んだ、大学山岳部らしい計画になっています。大学山岳部の山登りは、一人ひとりが主人公でなくてはなりません。1年生から4年生まで、力量や役割は異なっても、一人ひとりが全力を出し、自己を発揮することが大切です。登山のみでなく、交流や調査を含んだ総合的な計画は、まさに部員一人ひとりが力を発揮しなければ成功させることができません。この合宿の経験は、若い彼らにとって、かけがえのないものになるでしょう。

今、若者が飛躍しようとしています。昨年は山岳部創部90周年でお世話になり、今年は震災でたいへんな中、本当に恐縮ですが、学生たちの思いを暖かく見守っていただき、ご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2. アコンカグア合宿に向けて

山岳部主将・登攀隊長 中山駿

2011年9月～10月にかけて計画されていた中国合宿（白芒雪山）は、出発直前になって現地当局からの登山許可が下りなくなり、非常に残念でしたが、計画を中止せざるを得なくなりました。そして、海外合宿の時期を2012年2月～3月へとずらし、再び山探しからスタートさせることとなりました。

長い準備を積み重ねてきた中国合宿が中止となってしまいましたが、私たちの中に、「海外合宿そのものを白紙に戻す」という考えは生まれませんでした。「山岳部の皆で、海外の山に行きたい。」皆が、そして誰よりも私自身が、この思いを強く抱いていました。中国の山の素晴らしい魅力ももちろんありましたが、山岳部で中国合宿をやろうとしたそもそもの動機、一番初めのイグニッションキーは、まさにこの思いであったからです。そして、今度は1年生を加えての完全なフルメンバーでの海外合宿となります。再び、ワクワクしながら皆で山を探し始めました。

そして決まった山は、南米大陸最高峰、アコンカグアです。技術的な難易度こそ高くはありませんが、なにより、高い。6952m という高度は、白芒雪山の最高峰（5527m）よりも1000m以上も高いこととなります。海外の山らしい、高く、大きい山です。さらに山そのものの魅力に加え、日本の裏側に位置する南米大陸、日本とは全く異なる文化圏に飛び込めるということも大きな魅力の1つです。アコンカグアの日本人初登頂は、1953年、他ならぬ早稲田大学山岳部の遠征隊によるものでした。それから65年以上の歳月が流れた今、先輩たちの歩んだ道程を辿りながら、再び遥かなるアンデスの山を目指します。

稲門山岳会のOB・OGの皆様には、今回対象となる山が変わってしまったにも関わらず、学生がやりたい山登りができるなら、と中国合宿から引き続いてアコンカグア合宿へのご支援に快諾していただきました。改めてお礼申し上げたいと思います。稲門の皆様のご支援がなければ、海外合宿のリスタートは叶わぬ夢となっていました。先輩方の気持ちも励みに加え、遠いアンデスの地で、学生全員で思いっきり山登りをさせていただきます。

創部90年の歴史と人に支えられながら、山岳部現役学生が一丸となって、アコンカグア合宿に取り組んで参ります。この合宿の経験は私たちを大きく成長させてくれるものと確信しています。そして、必ずや未来の早稲田大学山岳部へと、未来の後輩たちへと、バトンを繋げていきます。

3. 目的

南米大陸最高峰、アコンカグア【6962m】（アルゼンチン共和国）へのノーマルルートからの登頂

4. 時期

2012年2月12日（日）～3月22日（木）

*登山活動終了後の活動を行わない隊員は、3月12日（月）に帰国予定。

5. 行動概要

2月12日～2月13日 出国～アルゼンチン・メンドーサ

2月14日 メンドーサにて登山準備

2月15日～2月18日 メンドーサ～プエンテ・デル・インカ～オルコネス谷登山口～コンフルエンシア～プラザ・デ・ムーラ（BC）

2月19日～3月 8日 登山活動期間（19日間）

3月 9日～3月10日 BC～プエンテ・デル・インカ～メンドーサ

【帰国組】

3月11日～3月12日 メンドーサ～帰国

【登山後の活動】

3月11日～3月22日 メンドーサ～登山後の活動（10日間）～帰国（2日間）

6. 隊員

隊長 : 水田 幹久（監督、S52 卒）

登攀隊長：中山 駿（渉外・保険、教育学部5年）

登攀隊員：森本 尚平（輸送、社会科学部4年）

塚本 健吾（医療L、商学部4年）

奥田 祥（食糧・燃料、商学部5年）

橋本 秀（装備、教育学部4年）

小寺 凱（気象・登山後の活動L、人間科学部2年）

佐藤 貴文（記録（報告書）・会計、文学部2年）

向地 晴紀（医療S・登山後の活動S、スポーツ科学部1年）

萩原鼓十郎（登山後の活動S、政治経済学部1年）

登攀アドバイザー：稲葉英樹（S63 卒）

7. 登山隊事務局

大貫敏史 (コーチ、S60 卒)

住所：〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-21-2-103

TEL：03-3235-5633 携帯：090-4434-0106

Email: [会社] tonuki@tmi.gr.jp, [自宅] t_onuki@jf6.so-net.ne.jp

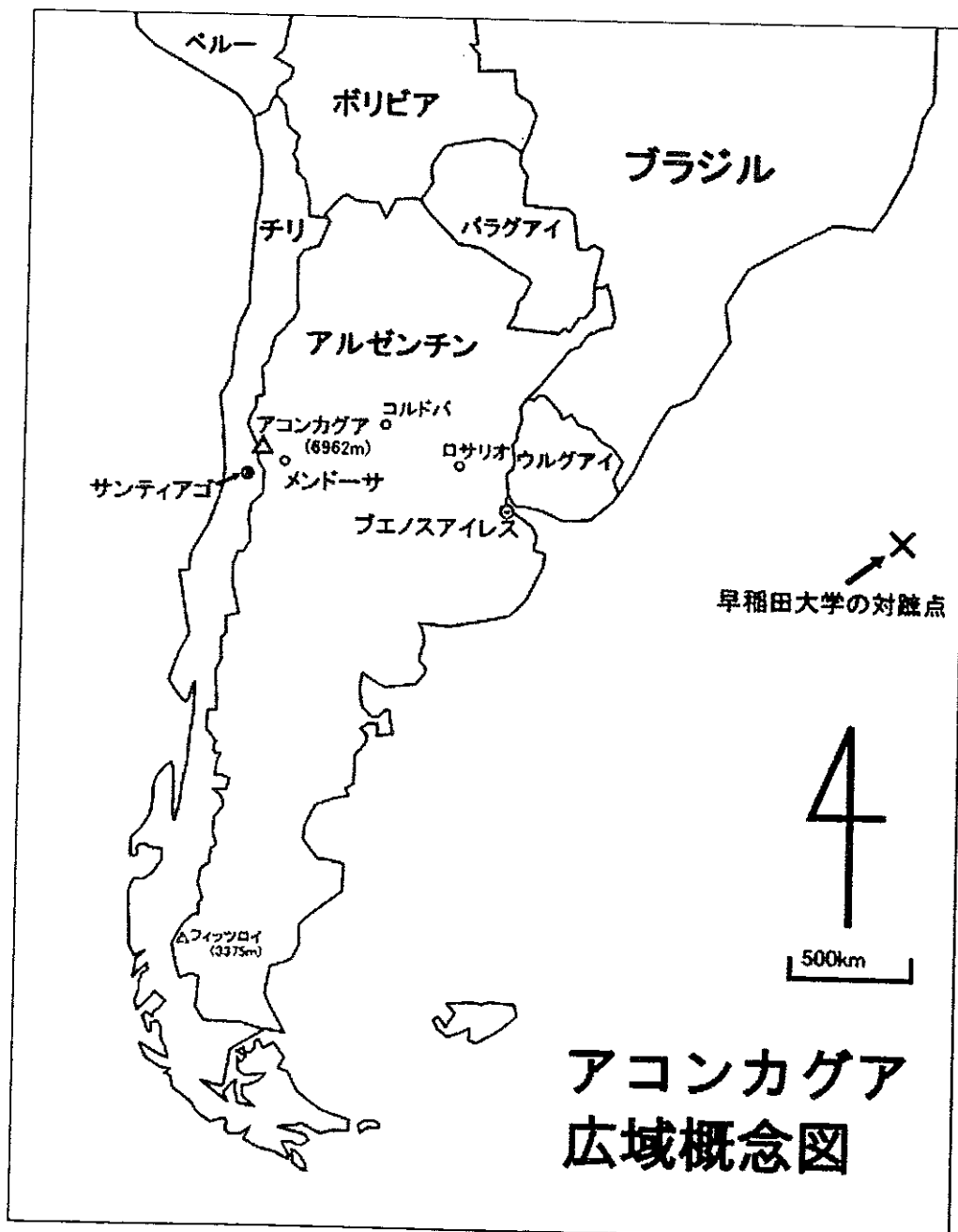
衣川信行 (稲門山岳会[OB会]幹事、S53 卒)

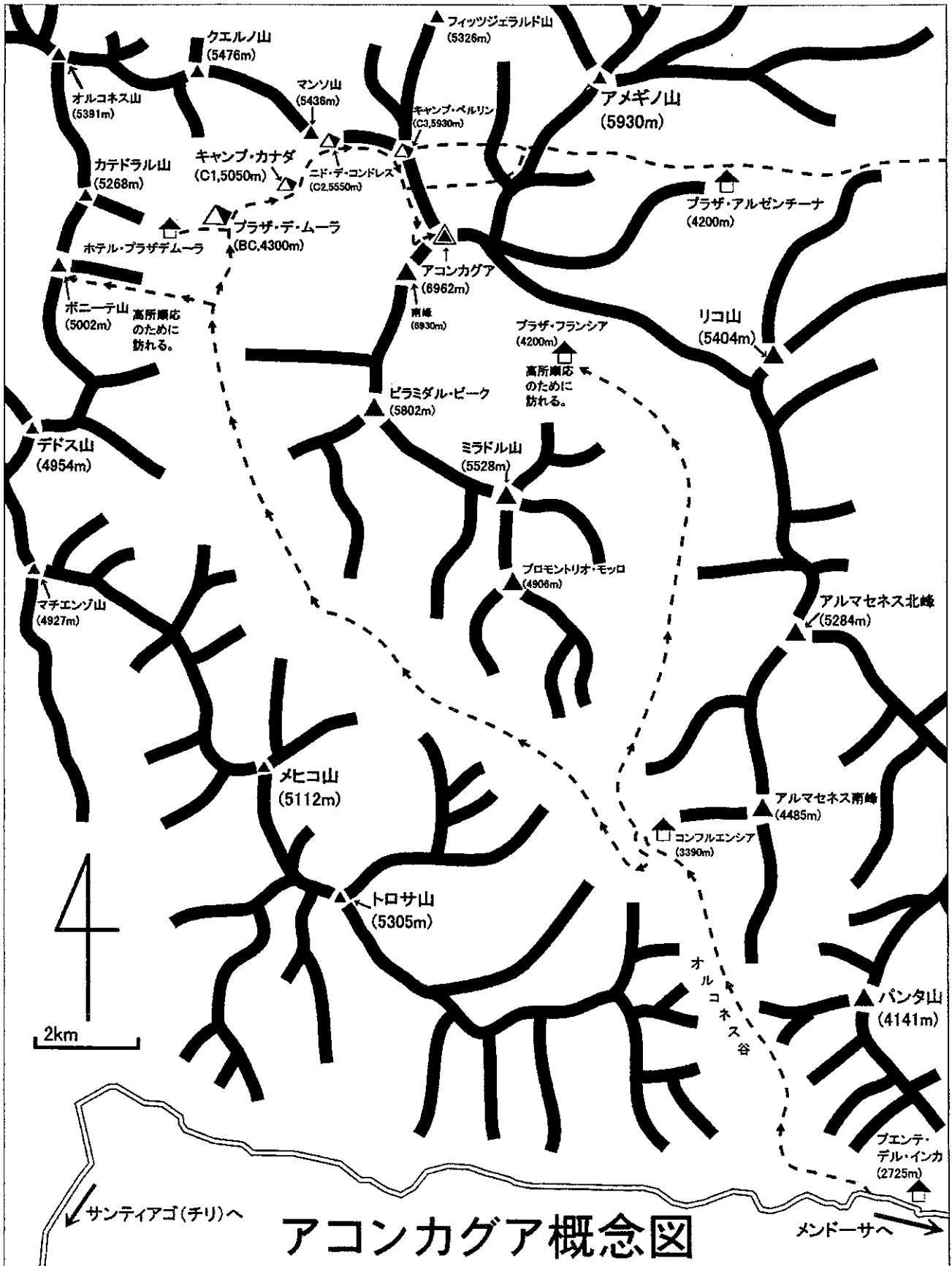
住所：〒156-0052 東京都世田谷区経堂 4-13-14-403

TEL：03-5477-7639 携帯：080-5880-3232

Email: [会社] kinugawa-nobuyuki@mitsui-hanbai.co.jp, [自宅] kinu3ncy@m3.gyao.ne.jp

8. 場所





早稲田大学山岳部

〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学競技スポーツセンター内

TEL : 03-3207-1980 (部室)

MAIL : wac_1920@hotmail.com

早稲田大学山岳部公式HP

<http://www.waseda.jp/9a-wac1920/index.html>